

ロキソプロフェンNa錠60mg「YD」

【この薬は？】

販売名	ロキソプロフェンNa錠60mg「YD」 LOXOPROFEN Na TABLETS
一般名	ロキソプロフェンナトリウム水和物 Loxoprofen Sodium Hydrate
含有量 (1錠中)	無水物として60mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するとき特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・ この薬は、非ステロイド性消炎・鎮痛剤（NSAID）と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・ この薬は、炎症にかかわるプロスタグランジンという物質の生成をおさえ、消炎・鎮痛・解熱作用をあらわします。
- ・ 次の目的で処方されます。

下記疾患並びに症状の消炎・鎮痛

関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、

肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、歯痛

手術後、外傷後並びに抜歯後の鎮痛・消炎

下記疾患の解熱・鎮痛

急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む）

- ・ この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲むことが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・消化性潰瘍のある人
- ・重篤な血液の異常のある人
- ・重篤な肝障害のある人
- ・重篤な腎障害のある人
- ・重篤な心機能不全のある人
- ・過去にロキソプロフェンナトリウム錠に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人
- ・アスピリン喘息（非ステロイド性消炎鎮痛剤などにより誘発される喘息発作）のある人、または過去にアスピリン喘息になったことがある人
- ・妊娠末期の人

○次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・過去に消化性潰瘍になったことがある人
- ・非ステロイド性消炎鎮痛剤を長期間使用したことによる消化性潰瘍のある人で、この薬を長期に使用する必要があり、かつミソプロストールによる治療を受けている人
- ・血液の異常のある人、または過去に血液の異常があった人
- ・肝障害のある人、または過去に肝障害があった人
- ・腎障害のある人、または過去に腎障害があった人
- ・心機能異常のある人
- ・過去に過敏な反応を経験したことがある人
- ・気管支喘息の人
- ・潰瘍性大腸炎の人
- ・クローン病の人
- ・高齢の人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

空腹時の服用は避けてください。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

〔関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、歯痛、手術後・外傷後並びに抜歯後の消炎・鎮痛の場合〕

1 回量	毎日服用の場合	1錠
	頓用の場合	1～2錠
飲む回数	〔毎日服用の場合〕	1日3回
	〔頓用の場合〕	医師の指示どおりに飲んでください。

〔急性上気道炎の解熱・鎮痛の場合〕

1 回量	1錠
飲む回数	原則として1日2回までとし、1日最大3錠を限度とします。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。気がついた時に、1回分飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分を飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬は炎症症状や痛みをやわらげますが、炎症などの原因を取り除いてその病気そのものを完治させる薬ではありません。
- ・関節リウマチ、変形性関節症の方がこの薬を長期間にわたり継続的に使用している場合は、尿検査、血液検査および肝機能検査などが定期的に行われます。
- ・この薬を急性炎症、痛みや発熱をやわらげるために使用する場合は、症状が激しいときに限って使用するよう指示されることがあります。この薬を急性の病気に長期間使用することは避けてください。
- ・この薬の副作用として、体温の下がりすぎや、虚脱、手足が冷たくなるなどの症状があらわれることがありますので、特に高熱のある高齢の人や消耗性疾患のある人は、この薬を使った後の状態に十分注意してください。
- ・この薬は感染による炎症症状をおさえるため、感染症の症状を把握できにくくすることがあります。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳を避けてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	めまい、冷や汗、意識がうすれる、考えがまとまらない、血の気が引く、息切れ、判断力の低下
アナフィラキシー様症状 あなふいらきしーようしょうじょう	からだがだるい、ふらつき、意識の低下、考えがまとまらない、ほてり、眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声、息苦しい、息切れ、動悸（どうき）、じんましん、判断力の低下
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	発熱、のどの痛み
溶血性貧血 ようけつせいひんけつ	からだがだるい、ふらつき、疲れやすい、立ちくらみ、めまい、頭が重い、白目が黄色くなる、動く時の動悸や息切れ、皮膚が黄色くなる、褐色尿
白血球減少 はっけつきゅうげんしょう	発熱、のどの痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、皮下出血、出血が止まりにくい
中毒性表皮壊死融解症 （TEN） ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう（テン）	からだがだるい、関節の痛み、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ（水疱）、発熱、食欲不振
皮膚粘膜眼症候群 （スティーブンス・ジョンソン症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん	からだがだるい、高熱、発熱、まぶたや眼の充血、結膜のただれ、ひどい口内炎、唇や口内のただれ、食欲不振、赤い発疹、中央にむくみをともなった赤い斑点、陰部の痛み
急性腎不全 きゅうせいじんふぜん	からだがだるい、からだのむくみ、疲れやすい、意識の低下、頭痛、眼がはればつたい、息苦しい、尿がない、尿量が減る
ネフローゼ症候群 ネフローゼしょうこうぐん	全身の著明なむくみ、尿量が減る
間質性腎炎 かんしつせいじんえん	関節の痛み、発熱、頭痛、膨れあがる感じ、血尿
うっ血性心不全 うっけつせいしんふぜん	からだがだるい、全身のむくみ、吐き気、息苦しい、動く時の息切れ
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	発熱、から咳、息苦しい、息切れ
消化管出血 しょうかかんしゅけつ	血を吐く、吐き気、嘔吐（おうと）、腹痛、血が混ざった便、黒色便
消化管穿孔 しょうかかんせんこう	吐き気、嘔吐、激しい腹痛
小腸・大腸の狭窄・閉塞 しょうちょう・だいちょうのきょうさく・へいそく	吐き気、嘔吐、腹痛、腹部膨満

重大な副作用	主な自覚症状
肝機能障害 かんきのうしょうがい	からだがだるい、白目が黄色くなる、吐き気、嘔吐、食欲不振、かゆみ、皮膚が黄色くなる、尿が濃くなる
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿が褐色になる
喘息発作 ぜんそくほっさ	息をするときヒューヒューと音がする、息苦しい、息切れ
無菌性髄膜炎 むきんせいずいまくえん	発熱、頭痛、嘔吐
横紋筋融解症 おうもんきんゆうかいしょう	脱力感、手のしびれ、手足のこわばり、足のしびれ、筋肉の痛み、赤褐色尿

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷や汗、からだがだるい、発熱、全身の著明なむくみ、関節の痛み、脱力感、ふらつき、高熱、からだのむくみ、全身のむくみ、疲れやすい、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ(水疱)、疲れやすい、立ちくらみ
頭部	めまい、頭痛、意識がうすれる、意識の低下、考えがまとまらない、頭が重い
顔面	鼻血、血の気が引く、ほてり
眼	眼と口唇のまわりのはれ、白目が黄色くなる、眼がはれぼったい、まぶたや眼の充血、結膜のただれ
口や喉	しゃがれ声、眼と口唇のまわりのはれ、血を吐く、歯ぐきの出血、嘔吐、吐き気、のどの痛み、ひどい口内炎、唇や口内のただれ、から咳、息をするときヒューヒューと音がする
胸部	動悸、息切れ、息苦しい、吐き気、動く時の息切れ、動く時の動悸や息切れ
腹部	食欲不振、吐き気、腹痛、激しい腹痛、膨れあがる感じ
手・足	手のしびれ、手足のこわばり、足のしびれ、関節の痛み
皮膚	じんましん、皮膚が黄色くなる、かゆみ、あおあざができる、中央にむくみをともなった赤い斑点、赤い発疹、皮下出血
筋肉	筋肉の痛み
便	血が混ざった便、黒色便
尿	尿が濃くなる、尿が褐色になる、血尿、尿量が減る、尿がでない、赤褐色尿、褐色尿
その他	判断力の低下、出血が止まりにくい、出血しやすい、陰部の痛み

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：株式会社 陽進堂 (<http://www.yoshindo.co.jp/>)

販売会社：共創未来ファーマ株式会社 (<http://www.kyosomirai-p.co.jp/>)

お客様相談室

電話：050-3383-3846

受付時間：9時～17時

（土、日、祝祭日、弊社休日を除く）